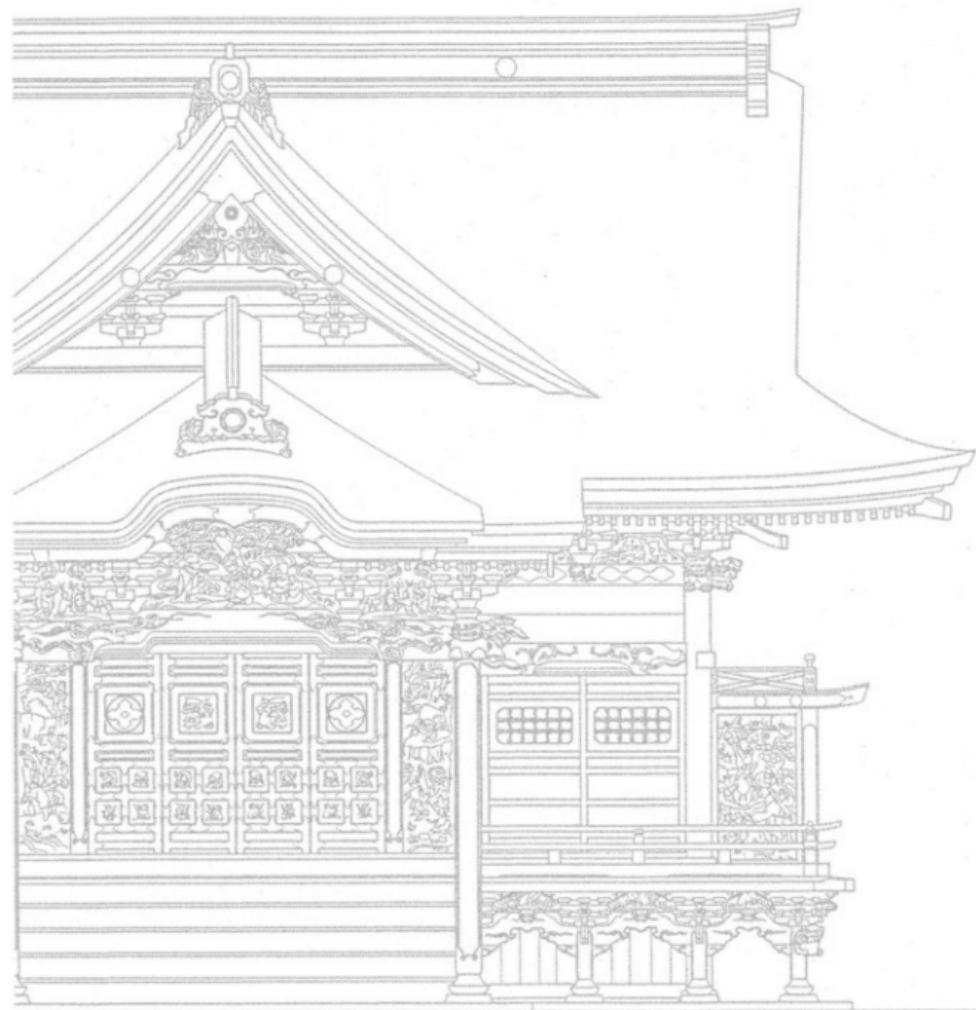


文化財調査報告書



前橋市教育委員会

昭和63年度

第19集



内掘遺跡出土 燭轡(馬)



荒子小校庭II遺跡出土 銅印



車橋門跡 開達石垣遺構

序

いまは、「らしさ」をもとめる時代といわれます。らしさとはなんでしょうか。はやりの言い方ではアイデンティティといわれるものでしょう。借物、みせかけだけではない本当の姿こそが、その個性を主張し、他に際立たせてくれるのです。

前橋にも「らしさ」を求めると思います。その手段のひとつとして、この報告書を発行します。このなかには、前橋らしさの素材があると信じています。

さて、文化財保護事業は、広い権野を持っています。その詳しい内容は本文に譲りますが、特徴的な内容を何点かあげてみましょう。

62年度末、市指定史跡前橋城車橋門跡の南から、関連する石垣遺構が検出され、その保存にかんしては、関係各位、とくに土地所有者の多大な理解のもと、63年度、現状に保存できたことは、本市文化財保護行政のなかで、特筆すべき事項であったと思います。

昭和63年度の保存、整備事業では、臨江閣本館、茶室の保存修復工事と総社歴史散歩道整備がそれぞれ第2年次を迎え、事業に一層の進展をみせました。臨江閣は平成2年の秋には、工事を終え、市民の皆さんに利用していただけるようになるでしょう。総社歴史散歩道の整備では、カラーの航空写真を利用した散歩道の地図を市民、来訪者向けに刊行しました。

普及事業では、「前橋の文化財」の刊行があげられます。初版の2,000部が数日の内に完売となるなど、市民の方に大変よろこばれました。夏に実施している文化財展も「前橋の文化財」の刊行にあわせて、指定文化財を中心に展示し、大変好評でした。

調査事業では、昌楽寺、光巖寺の文化財調査と、第4年次を迎えた民俗文化財調査と、民俗文化財調査報告書第1集の刊行があげられます。昌楽寺では天狗岩根水下分筋略図など、光巖寺では秋元氏由来の什物と建物調査を実施しました。光巖寺は、平成元年度継続して軸物と古文書調査を実施する予定です。光巖寺周辺は、総社歴史散歩道のなかでもポイントとして重要な場所であり、調査の成果は整備にも反映されます。また、散歩道は、平成元年度、日本観光資源保護財団の調査対象に選定されており、その結果も期待されます。

埋蔵文化財の調査では、開発に伴う試掘調査、12遺跡の発掘調査と芳賀園地遺跡の報告書第3卷刊行準備作業を実施しました。特に、荒子小学校の校庭からは、「謎」と影られた印章が発掘され、新聞紙上をにぎわしました。元総社明神遺跡は第7次、内堀遺跡は第2次、また熊野谷遺跡は初年度の調査をそれぞれ実施し、貴重な記録を得ることができました。

このように、63年度文化財保護室として、多くの事業に取組み多大な成果を上げることができたと思います。

最後に、事業推進にあたって、ご指導ご協力いただいた、関係各位、機関に感謝申し上げるとともに、この文化財調査報告書第19集が、文化財保護のため活用されることを祈念いたします。

平成元年9月

前橋市教育委員会

教育長岡本信正

目 次

序

目次・例言

I 文化財調査委員による調査	1
1. 岩槻寺文化財調査	1
2. 光嚴寺文化財調査	3
新指定物件の紹介	
「石造地蔵菩薩坐像」元景寺内	8
II 文化財保護室事業	9
1. 保護管理運営事業	9
(1) 国有文化財管理	9
(2) 国・県・市指定文化財管理	9
(3) 史跡等の除草・清掃	10
(4) 文化財バトロール	10
(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理	10
(6) 国指定史跡前二子古墳内土地購入事業	10
2. 整備事業	11
(1) 総社地区歴史散歩道整備	12
(2) 標識・説明板の設置	12
(3) 天川二子山古墳修復工事	12
(4) 文化財補修管理工事	12
3. 普及事業	13
(1) 「前橋の文化財」刊行	13
(2) 第14回前橋市文化財展	13
(3) 内堀遺跡群現地見学会	13
(4) 文化財めぐりパンフレット増刷	13
(5) 文化財愛護ポスター作成	13
(6) 第16回前橋市郷土芸能大会	14
(7) 教材開発事業	14
(8) 第7回文化財普及講座	14
(9) 史跡・文化財めぐり	14
(10) 文化財防火デー	14
(11) 文化財資料の貸し出し	15
(12) 体験発掘	15

(13) 文化財保存団体助成	15
(14) 文化財展示室の移設(中央公民館)	15
(15) その他	15
4. 調査事業	16
(1) 小諸城及び上田城調査	16
(2) 総社町植野地区の加工石調査	16
(3) 総社町粟島の秋葉講調査	16
(4) 小栗忠順(上野介)の旧宅調査	17
(5) その他の調査	17
5. 墓蔵文化財発掘調査事業	18
(1) 本年度の発掘をふりかえって	18
(2) 市指定史跡車橋門跡関連石垣遺構	21
(3) 熊野谷遺跡(青梨子町)	23
(4) 元総社明神遺跡(元総社町)	23
(5) 内堀(上繩引)遺跡(西大室町)	24
(6) 西三並遺跡(中内町)	24
(7) 芳賀北曲輪遺跡(勝沼町)	25
(8) 横依(上八光)遺跡(下大室町)	25
(9) 荒子小学校II遺跡(荒子町)	26
(10) 地蔵前遺跡(川山町)	26
(11) 植荷山遺跡(総社町)	27
(12) 昌楽寺廻向II遺跡(総社町)	27
(13) 天神II遺跡(元総社町)	28
(14) 若宮遺跡(総社町)	28
(15) 芳賀团地遺跡	29
臨江閣本館および茶室の保存修復工事について	30
あとがき	

例 言

1. 本書は、前橋市教育委員会文化財保護室で行なわれた、昭和63年度の諸事業の概要をまとめたものである。
2. 企画・編集は文化財保護室で行い、市民の方にわかりやすい表現・構成を心がけた。

I 文化財調査委員による調査

文化財調査委員は、現在5人が委嘱され、市文化財保護条例にある文化財に関して、調査、意見提出等の仕事をしています。調査は、市内の主要社寺を順に調べることになっており、63年度は、62年度の元景寺に続き昌楽寺、光巣寺の調査を行いました。平成元年度も光巣寺の調査を行うことになっています。調査は9月13日から2日間実施しました。建造物についても2年継続で調査を実施しています。

1. 昌楽寺文化財調査

- 名称 西林山淨土院昌楽寺
- 所在 前橋市元総社町3640
- 住職 綾小路乗正
- 宗派 天台宗

昌楽寺は、現在総社神社の東北に位置している。ここは元は総社町巣鳥分であり、何回かの焼失と移転で現在の地に移っている。

総社郷土誌によれば、千葉之介が山王権現と共に上野国上野の里に再建され、慶長九年(1604)、總社明神裏巣鳥分門中蒙藏院地内、現在地に移した。

寛永十年(1633)、徳川幕府より御朱印三十石を与えられている。

明治三十一年、再び火災にあり、本堂庫裡など、ことごとく焼失している。

山王庵寺のある場所は、昌楽寺通りの地名があり、出土文字瓦から放光寺の存在が考えられていが、昌楽寺はこの寺を受け継ぐものと考えられる。

什物の中では、朱印状8通の他、天狗岩壇水下水行筋略図が注目された。

以下は目録を参照されたい。

昌 楽 寺 什 物 等 目 錄

整理番号	表 略	年 代	備 考 (cm)
1	常 慶 院 様 御 朱 印	貞享二年六月十一日	朱印状(鋼吉) 46.9×64.7
2	有 德 院 様 御 朱 印	享保三年七月十一日	朱印状(吉宗) 46.3×65.5
3	梅 倍 院 様 御 朱 印	延享四年八月十一日	朱印状(家重) 46.8×65.5
4	凌 明 院 様 御 朱 印	宝曆十一年八月十一日	朱印状(家治) 46.4×64.7
5	文 真 院 様 御 朱 印	元禄八年九月十一日	朱印状(家高) 46×64.2
6	楨 德 院 様 御 朱 印	天保十九年九月十一日	朱印状(家慶) 46.4×64.5
7	溫 德 院 様 御 朱 印	安政二年九月十一日	朱印状(家定) 45.7×64.3
8	昭 德 院 様 御 朱 印	万延元年九月十一日	朱印状(家茂) 45.8×64.7
9	上野国群馬郡波高根用水植野 天狗岩壇水下水行筋略図	天保九年	(207×94) 230×101
10	伝 家 大 朝 坐 僧 画	江戸初期(元禄期)	絹本着色(アリ) (179×55) 191.5×68
11	聖 聖 音 立 僧 画	絹 畫	(106.5×42) 183×56
12	疋田種姓屏風繪八仙人圖	享和之春(明治四十二年)	九点、鉄剛仙人図 外七点、130×58.5
13	星 築 佛 図	明治四十二年二月十三日	一豊齊富集 (168×130) 246×147
14	燃 燃 菩 薩 廬 坐 僧	江戸時代	鉄、鉄物、元金箔あり、光背の取りつけあとあり、江戸西村和服守188×110 (像高110) (ひざはり103)
15	薬 郡 如 来 坐 僧	室町時代	45×38 (27×24) 鋼鑄15.5
16	釈迦如来菩薩圖	辛亥秋(明治四十二年)	紙本着色、鍵田峰雲 (186×120) 294×136

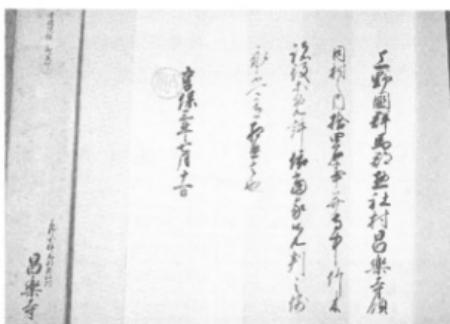
17	波 澤 図	幕末～明治（丙子秋）	紙本着墨、鈴、松本宏酒（180×97.5）200×114
18	寒 嶺 図	歌集丙子春日（明治九年）	墨画、鈴、松本宏洞（47×118）55×139
19	寺 配 薦 図	江戸時代末	焼ける前の寺の配薦図、94.3×136
20	地 図（土地分類）	幕 末	紙 本、94.5×90



上野国群馬郡西都用水権野
天狗岩邊水下水行筋略図



寺配薦図



朱印状



天狗岩略図の一部(總社町付近)

2. 光巖寺文化財調査

- 名称 秋天山江月院光巖寺
- 所在 前橋市総社町総社1607
- 住職 田中耕順
- 宗派 天台宗

光巖寺は、総社藩の初代藩主、秋元長朝が、母のために創建したもので、秋元氏をとつて秋元山の山号とし法号の光巖院殿をとつて寺号としたものである。

新寺創設が幕府に認められず、元総社の徳藏寺を移したこととし、同寺十三世亮應を開山に迎え、寺の一世としたという。

寺は焼失の災害にあっているが、秋元家由来の什物が伝わっている他、古文書と経典書籍多数が残されている。

63年度は廟所内の什物、天井画、朱印状の調査

を行い、平成元年度、仏画、古文書の調査を行う予定である。

また、建造物敷地についても調査を行い、平面図配置図作成を行つた。この調査も平成元年度に継続する予定である。

本堂は文政三年に再建されたもので、昭和28年に茅葺きを瓦葺きに改めている。御本尊の位置、入り口の位置が中心より向って右へ移つてあり、これは、門の位置との関係があるものか。

本堂北の廟所は、文化九年に再建されたもので天井に八方にらみの龍が描かれている。

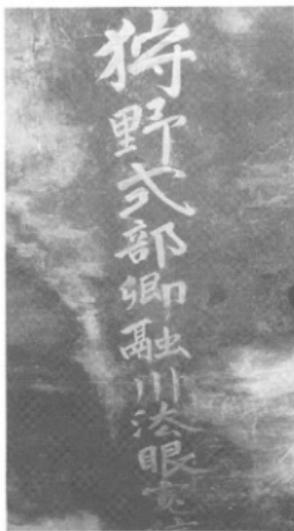
融川院法眼藤原寛信の作である。言い伝えによれば、日光造営奉行をしていた秋元泰朝が、日光東照宮のために書かせたが、寸法が合わないとして光巖寺に持ってきたものが、最初の八方にらみの龍であるという。



額額（秋元泰朝筆）



八方にらみの龍（廟所天井画）



八方にらみの龍（作者銘）



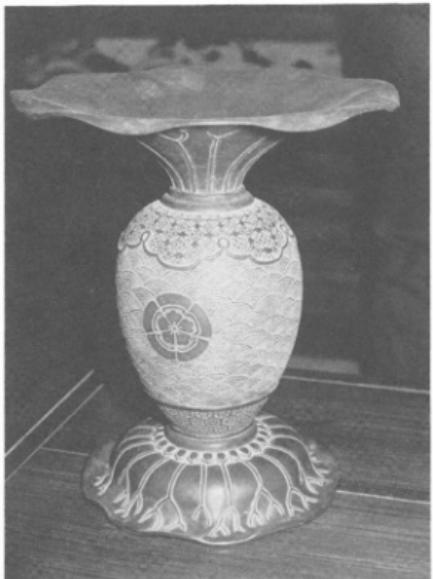
位碑



廟所内部



燭台



華瓶



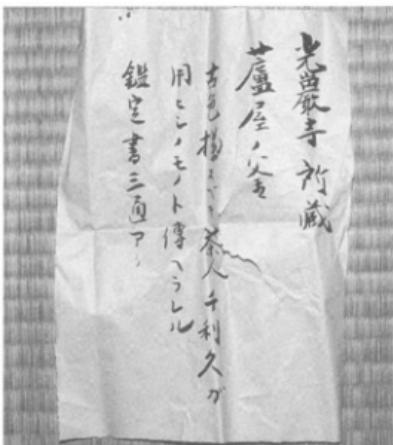
宇賀神



経机(近江石山寺)



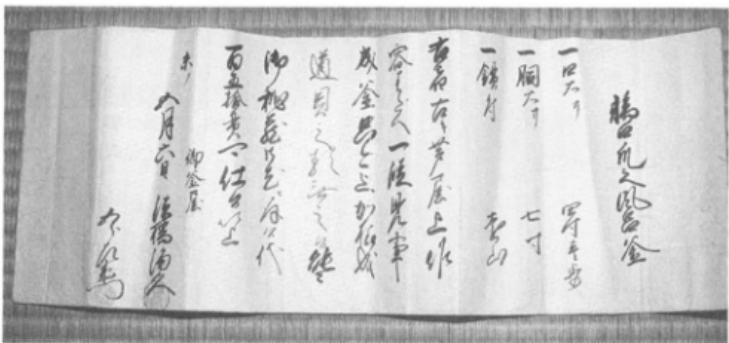
芦屋の聲



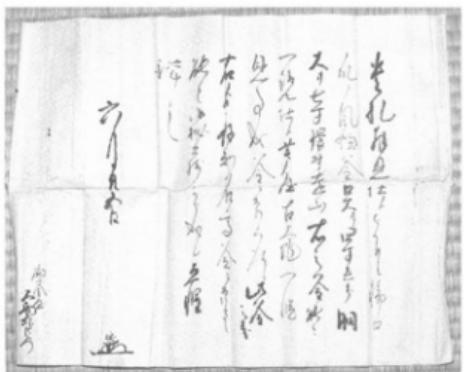
声優の益添書



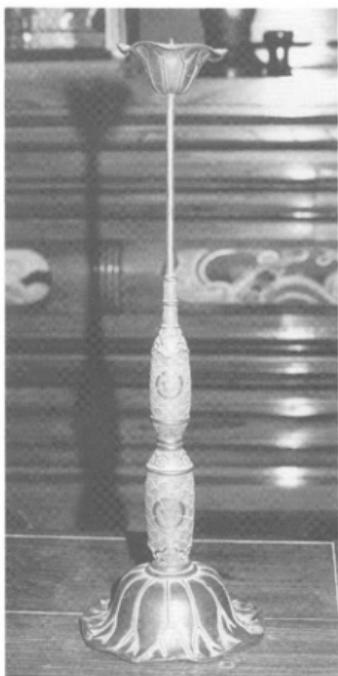
芦屋の蓋添書（鑑定書）



書類の添付書（鑑定書）



芦屋の蓋添書（鑑定書）



燭台



香炉



手あぶり

新指定物件の紹介



名 称 石像
石造 地藏菩薩坐像

・区 分 前橋市指定重要文化財

・記号番号 重第56号

・所 在 地 前橋市総社町植野150元景寺

・所 有 者 元景寺

・指定年月日 昭和63年8月3日

〈概 要〉

この石仏は、安山岩製の地蔵菩薩坐像で、二重の蓮華座の上に半肉彫りの座像が彫られ、舟型光背を負っている。光背とも一石である。

銘文は、像の右脇に 妙円 妙春 諸旦那敬白
二位 左脇に 応永廿八年 八月廿四日
とあり、西暦1421年に作られたことが分かる。

また、像の上に、地蔵の種子「カ」が篆研彫で

記してある。

頭部は、偏形に造られ、髪際は中央部が弧を描いて乗り下り、面相は穏やかな表情をたたえている。

肩は、耳下部からくめた形に表現され、身にまとう衣は胸を開けて、複式に形成されている。

右手には錫杖を持ち、左手には宝珠を持っている。衣の表現と髪際には、宋風の曲線で柔らかい彫りの様式が見られる。

この時期を境に、材質が、凝灰岩から安山岩に変化し、また、首ガのびるといった変化があり、室町時代初期の基準作として重要な石仏である。

法 量 総高69.5センチ 像高38.5センチ

膝張23.0センチ

II 文化財保護室事業

1. 保護管理運営事業

本市に所在する豊かな文化財を保護し、また活用するため、本年度においても次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の総社二子山古墳と天川二子山古墳はそれぞれ地元の山田勝二さんと御洪徳雄さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施しました。

また、除草や清掃等については総社史跡愛好会と市連合青年団の方々の協力ををお願いしております。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定の文化財が21件。県指定が37件、市指定が80件あり合計で138件です。各文化財には標柱と説明板を設置しており、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っています。

なお、区分については下のとおりです。



① 指定区別文化財

区分	種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定		3	11	1	0	0	6	21
県指定		32	4	0	0	1	0	37
市指定		55	15	0	7	3	0	80
合計		90	30	1	7	4	6	138

② 時代区別文化財

時代別	指定別	国指定	県指定	市指定	合計	
					件数	割合(%)
(天 然)		↑	0	0	1	0.7
原 始		↑	0	0	1	0.7
古 代		14	2	15	31	22.5
中 世		3	19	23	46	32.6
近 世		2	13	37	52	37.7
近 代		0	3	5	8	5.8
合 計		21	37	80	138	100.0

(平成元年3月31日)

(3) 史跡等の除草・清掃

左表の史跡については、地元自治会の他、シルバー人材センター等に委託して除草及び清掃を行いました。

史跡が現状のまま保存されていくように日常管理に務めました。

番号	物 件 名	区 分	所 在 地	面 積
1	鬼 庫 山 古 墓	市指定史跡	山王町一丁目	2,486m ²
2	金 冠 墓 古 墓	市指定史跡	山王町一丁目	1,552m ²
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町	3,000m ²
4	車 梅 門 路	市指定史跡	大手町二丁目	400m ²
5	酒井氏堤代墓地	市指定史跡	紅葉町二丁目	3,800m ²
6	天 神 山 古 墓	県指定史跡	広瀬町二丁目	730m ²
7	八 稲 山 古 墓	国指定史跡	鶴鳴町四丁目	11,200m ²
8	前 二 子 古 墓	国指定史跡	西大室町	7,700m ²
9	中 二 子 古 墓	国指定史跡	東大室町	8,400m ²
10	後 二 子 古 墓	国指定史跡	西大室町	3,700m ²
11	鈎 穴 山 古 墓	国指定史跡	緑社町緑社	1,793m ²
12	宝 岩 山 古 墓	国指定史跡	緑社町緑社	2,916m ²
13	女 稲	国指定史跡	東大室町・鶴土井町	9,400m ²

(4) 文化財パトロール

市内を5地区に分け、各地区に1名文化財保護指導員を委託し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

パトロールの状況は月2回程度、文化財保護室に報告していただき、緊急事態に対処することができました。

地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	一二三 九兵衛		
緑社・元緑社	新 木 一郎治		
広瀬・山王	関 根 辰 雄		
芳 寶	中 島 幸雄郎		
坂 南	森 村 伊鶴姫		

(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立蚕種製造所として建てられたもので、本市に残る明治時代の貴重な建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌67年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸等関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

(6) 国指定史跡前二子古墳内土地購入事業

史跡保存のため前二子古墳の範囲内にある土地（墓地）112m²を購入しました。また、ここに建てられていた墓石の移転を行い史跡内の整備を図ることができました。

2. 整備事業

(1) 総社地区歴史散歩道整備

17集では、総社地区歴史散歩道整備（以下歴史散歩道）の全体の概要を記すと共に総社地区全体の総合的な整備（案）について述べました。昭和62年度においては、歴史散歩道整備の第1年次（3年計画）として、総社地区を中心にして案内表示板30基を設置しました。

内訳は、道標20基、壁面プレート5基、路面プレート5基です。さらに、本年度（昭和63年度）においては、歴史散歩道整備計画の2年次目として、元総社地区（総社地区を一部含む）を中心にして、32基の案内表示板を設置しました。



内訳は、道標19基、壁面プレート6基、路面プレート7基です。

これにより、総社地区及び元総社地区においては、計62基の案内表示板が既存の道路及び史跡地内・民家の壁等に取り付けられ、JR群馬総社駅・JR新前橋駅を基点とした歴史散歩が可能となりました。

これらの設置については、地元自治会長さん及び設置箇所の地主さんたちの快い御協力や承諾なしにはなしえないので、この場を借りて感謝申し上げます。

また、本年度は、総社・元総社地区の案内表示板が一応設置終了することに伴い、この地区的文化財をより分かり易く見学して歩けるようにとの考え方から、文化財の名称及び位置、案内表示板の設置箇所を表した「歴史散歩道ガイドマップ」を作成しました。現地に設置された案内表示板とこのガイドマップと併せて利用して総社・元総社地区を楽しみながら歩いて頂ければ幸いと考えております。

次に、平成元年度の整備ですが、案内表示板等は63年度と同じく合計30基程度を設置する計画です。整備のコースは、市街地を中心にしてのJR前橋駅からばら園までのコースを予定しています。

この整備が行われることにより、市街地と総社地区が歴史散歩道により結ばれることになり、総社地区から市街地へ、また、市街地から総社地区へ



という史跡めぐりができることになり市街地を含めた総社地区の歴史散歩道整備が面的な整備となるのです。

平成元年度において、案内表示板の設置は一応終了となります。が、総社地区の町並調査も実施されることになっており、調査結果等も今後の整備に活用していきたいと考えています。

総社地区は、対岸の利根川左岸に建設されているイベント・ホールや日本庭園等のコンベンション施設に極近接した、前橋の歴史と文化を多くの人に知ってもらうための貴重なヒンターランド

(後背地)としての機能を担わせられる可能性のある地区です。その時のために、この歴史散歩道整備は、ごく限られた整備ではありますが、将来そのような機能を担うための条件整備として位置付けておく必要があるのです。

総社地区には、全国的に見ても貴重な古墳や文化財があり、また、江戸時代の城下町、佐渡街道の面影を残す町の地割りや地名等が残っており、住む人々もそれらを地区の誇りとして大切にしています。歴史散歩道整備は、まだ始められたばかりで、十分とは言えませんが、これからも総社地区のこれらの良い歴史環境を失わないように、また、訪れた人々がこの地区的歴史環境が体感できるような整備をしていきたいと考えています。

(2) 標識・説明板の設置

昭和63年度においては、次のように指定文化財・史跡を中心とした標識・説明板の設置をしました。

* 標識 2基

石田玄圭の墓……昭和26年4月24日に指定されたもの

野良犬獅子舞……昭和48年9月24日に指定されたもの

* 説明板 2基

富田の宝塔……昭和61年6月6日に指定されたもの

妙安寺指定物件一覧表……国・県・市指定物件
28件の一覧表

* 案内板 1基

桂賀公民館……桂賀地区の史跡案内板

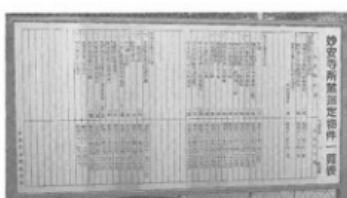
(3) 天川二子山古墳修復工事

昭和59年度に修復工事をした擬木階段周辺が人為的及び雨水により土砂が流出し、このまま放置しておくと墳丘部の形状が変化してしまう恐れがあるので、盛り土をし植栽(リュウノヒゲ)を行い、土砂の流出を防ぐと共に墳丘の現状保護に務めました。

(4) 文化財補修管理工事

昭和63年度においては、総社町植野にある(總

社)二子山古墳の石室を覆っている板が古くなり、見学者等が乗つたりすると危険な状態であつたために、その板の交換を実施しました。



3. 普及事業

(1) 「前橋の文化財」刊行

前橋市内に所在する138件の国・県・市の指定文化財の紹介本「前橋の文化財」を63年12月に刊行しました。体裁はB5判、167頁、カラー写真を178点を掲載したもので2,500部作成しました。その内、2,000部を有償とし希望者に販売をしましたが、3週間ほどで完売するほどの好評でした。その後も購入希望者が多いため、次年度に1,000部増刷することになりました。



(2) 第14回前橋市文化財展

○日 時 昭和63年8月5日㈭～8月28日㈰

○会 場 前橋市立図書館2階展示室

○テー マ 「前橋の文化財」

63年度の文化財展は、市内に所在する指定文化財の中で、日頃秘蔵品となっている神社仏閣の宝物を可能な限り借用し、展示公開しました。展示品は、国・県・市の指定文化財31点、写真/パネル28点、文化財所在地図等でした。市の広報、NHKテレビ、上毛新聞等報道機関にも大きく取り上げられ、期間中3,000名を超える見学者が訪れ、好評のうちに終了しました。

(3) 内堀遺跡群現地見学会

○日 時 昭和63年10月22日㈯・23日㈰

○会 場 前橋市西大室町内堀遺跡群

前橋市では、すぐれた自然景観で知られている大室の地に「大室公園」の建設を計画しました。内堀遺跡群の発掘調査は、この公園建設に伴うもので昭和62年度から調査が進められてきました。その成果を広く市民の方々に知っていただきため、63年10月に現地見学会を開催しました。調査例の少ない帆立貝式古墳、活断層断面、人物埴輪・器財形埴輪、赤井戸系土器などの貴重な遺構・遺物が実際に見学できることから、700人を越える見学者が訪れ、埋蔵文化財の普及に大いに役立ちました。



(4) 文化財めぐりパンフレット増刷

昭和62年度以前の文化財めぐりのパンフレットを改訂し、各コース1,500部発行しました。しかし、パンフレットが好評のうちに残部少少となつたため、63年度に計1万部増刷しました。各コースの増刷部数は次のとあります。

○旧沼田街道沿いの文化財めぐり	1,600部
○芳賀・桂賀の文化財めぐり	1,600部
○朝倉・広瀬の文化財めぐり	2,200部
○元総社・總社の文化財めぐり	3,000部
○城南地区的文化財めぐり	1,600部

(増刷部数の違いは配布頻度による)

(5) 文化財愛護ポスター作成

昭和62年度に実施した第3回文化財愛護作品コンクールの最優秀作品（ポスターと標語）で、文

化財愛護ポスターを作成し、市内の小中学校、公民館、指定文化財管理者等に配布しました。

(6) 第16回前橋市郷土芸能大会

- 日 時 昭和63年11月12日(土) 午後2時~4時
- 会 場 前橋市民文化会館 小ホール

前橋には、人々の心のよりどころとして守り育てられてきた伝統ある民俗芸能が、市内各所に受け継がれています。前橋市郷土芸能大会は、そうした郷土芸能を広く市民に公開し、保護・育成を図るとともに市民文化の向上を目的として毎年開催してきました。本年度は、次の出演団体がみごとな伝統花能を披露しましたが、多くの入場者があり盛況でした。

○出演団体

- ・産泰神社太々神楽（同保存会）
- ・雅楽（二之宮無形文化財保存会）
- ・木遣唄（前橋吉幸木遣保存会）
- ・上泉の獅子舞（上泉町郷土芸能保存会）
- ・大友祭魔子（大友町自治会）



(7) 教材開発事業

学校教育・社会教育で活用されることを目的とした歴史・文化財スライドを作成しました。内容は、「関東の華・前橋城」で、城に関係する歴史資料、城絵図、文化財、人物等を撮影し、25部をスライド化しました。次年度には残りの15部をスライド化し、解説書を作成し、市内小中学校・公民

館等へ配布する予定です。

(8) 第7回文化財普及講座

本年度も昭和62年度に引き続いて、だれでもが参加できる文化財普及講座ということで、市内に所在する文化財等についての入門シリーズを開催しました。会場は前橋市中央公民館第3学習室でしたが各回とも平均して50名前後の受講生があり、講師の先生のわかりやすい話に熱心に耳を傾けていました。開催した講座名と講師の先生は次のとおりです。

講座名と講師

日	日 時	講 座 名	講 師
1	10月8日(土)	古 滋 入 門	松 島 宗 迹 氏 (前橋市文化財調査委員)
2	10月15日(土)	地 名 入 門	郡 丸 十九一 氏 (群馬県文化財保護審議会委員)
3	10月29日(土)	民 家 入 門	桑 原 雄 氏 (国立豊田萬葉教授)

(9) 史跡・文化財めぐり

63年度も20団体1,500人もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。特徴としては、小学校の子供たちによる古墳等の見学が多かったことです。方面は、総社・元総社地区が全体の半分以上をしめました。なお、62年度から総社・元総社地区に設置した史跡・文化財案内の道標・壁面プレート、路面プレートは、見学者に好評を得ました。

(10) 文化財防火デー

「貴重な文化財を火災から守ろう」と1月26日に前橋市消防本部と協力して火災防御訓練や消防査察を実施しました。本年度で第35回目を迎えた文化財防火デーは、昭和24年1月26日に奈良法隆寺の壁画が焼失した日を記念して毎年実施されています。本年度は次の指定文化財所在地で訓練や査察を行いました。

○火災防御訓練

- ・上野総社神社（前橋市元総社町2377）

○消防査察

- ・前橋市蚕糸記念館・東照宮・臨江閣本・別館
- ・旧アメリカンボード宣教師館・孝顕寺

- ・慈照院・無量寿寺・二宮赤城神社・日輪寺
- ・善勝寺・上泉郷倉・上野總社神社・光巖寺
- ・大徳寺



(11) 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、1年間で23件、総点数91点に及びました。その中で特筆されるのは次にあげるものです。

- ・柳久保水田跡出土騎馬人物墨画土器 1点
(愛知県陶磁資料館・五島美術館へ)
- ・山王廃寺古瓦・奈良三彩小壺 4点
(京都国立博物館へ)
- ・前二子古墳出土一括土器 10点
(群馬県埋蔵文化財事業団へ)

(12) 体験発掘

63年度、前橋市教育委員会が実施した発掘調査は14遺跡、調査面積の合計はおよそ1万m²に上りました。その中で、次の二つの遺跡では児童生徒による体験発掘が行われました。

- 熊野谷遺跡（前橋市青梨子町）
参加者……中郷土クラブ生徒15人
- 内堀遺跡群（前橋市西大室町）
参加者……児童文化センター講座受講生

(13) 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存のために活動している文化財保存団体に本年度も補助金の助成を行いました。各団体では、それをもとにさまざまな事業

を行いました。

○総社地区史跡愛存会

- ・説明板の設置（大屋敷神明宮、遠見山古墳、紅葉山古墳）

○荒砥史談会

- ・標柱の設置（御殿山古墳、少将塚古墳、輪廻塔残欠、二本松遺跡、筑波山古墳、女堀）

○前橋市郷土芸能連絡協議会

- ・前橋市郷土芸能大会
- ・総会記念公演
- ・助成事業
- ・部門活動

(14) 文化財展示室の移設（前橋市中央公民館）

63年8月に前橋市中央公民館の三階にあった文化財展示室を一階ロビーに移設し、より一層市民の方々の見学の便を図りました。



(15) その他

- 「広報まえばし」への執筆
- 前橋市蚕糸記念館の展示
- 講座への講師派遣
- 前橋市庁舎一階ロビーの展示
- 文化財に関する問い合わせ・相談への対応

4. 調査事業

(1) 小諸城及び上田城調査

4月28日、小諸、上田両市教委を訪れ、渡り橋門について調査を行なつた。これは前橋城車橋門跡関連石垣遺構の検出に伴い、その保存、活用の方法をさぐるため行なつたものである。

古絵図・古写真の複写、修理工事の様子の調査及び現地調査を行なつた。

なお、石垣遺構については、別稿の通り、現状に保存されることとなつた。(21頁参照)

(2) 総社町権野地区の加工石調査

5月25日県埋蔵文化財調査事業団より水車にかかる加工石が見つかったとの連絡があり、30日に現地調査を行い、あわせて各種文献調査を行なつた。

その結果、土地所有者の話、また文献等から考えて、「分木」ではないかと判断された。これは、「淡路島の民俗」に事例が報告されているもので、用水の水を分ける際に、水量の割合をきちんと決めることができるよう、木又は石で作ったものである。

(3) 総社町栗島の秋葉講調査

本年度総社地区で実施した民俗調査に際し、総社町栗島の自治会に保存されていた秋葉講の控帳170冊を調査したものである。

秋葉講は、静岡県周智郡春野町の秋葉神社を信仰する講である。主として鎮火防火の信仰で室町時代に山伏により伝説、流布され、江戸時代に盛んになつた。関東・東海地方をはじめ各地に広まり、現在も市内各地に残っている。講に関係した石造物も多い。

栗島に残された帳面で最古のものは文政八年霜月十八日の秋葉山日待帳である。これによれば組合は四十五軒からなり、総支出は六百二十六文、内訳は油、味噌、豆腐、塩などとなっている。これをNo.1とし、昭和62年の秋葉講日待連名帳までで170冊を数える。ほぼ欠けることなく保存されて



いる。

この中で気のついた点をいくつかあげてみよう。

大正5年は、靈時祭、戸神落穴となつてある。

これは、この年に2回火事があつたため行つたものではないかという。

なお、新築の家は宿になることになつていて、昭和49年からは公民館を宿にしている。

昭和16年、18年、19年は区費、町内費を集め帳簿が一緒に綴られているが、これは祭典の費用と一緒に区費を集めただめである。ちなみに昭和18年には、69軒から20銭～30円を集め、総額119円1銭で、平均1円72銭となっている。支出内訳は、消防費に87円44銭、町内費に31円57銭となつていて、消防費にかかる割合が大きい事がわかる。

明治16年は、新暦12月吉日と旧暦11月18日が併記されている。この前後の年の記載は11月と12月があり、旧暦と新暦の記載が混じっているものと思われる。11月の場合旧暦で、12月の場合は旧の日取りを新暦に置き換えたものだろう。

明治28年からは、10月18日が続くようになるが、これは新暦のこの日に祭典日を決めたためと思われる。

なお、この書類を入れた箱は、越後の大工の手になるものである。この地に出稼ぎにきていた。町内の家に間借りして、仕事にいっていたという。墨書 大正参年拾月 越後国刈羽郡石地町 大工西村団重郎 寄贈

この地区的調査内容については、平成2年度刊行予定の前橋市民俗文化財調査報告書第2集を参考していただきたい。

(4) 小栗忠順（上野介）の旧宅調査

小栗忠順（上野介）は、江戸駿河台生れ、幕臣（旗本）勘定奉行、外国奉行、任官して豊後守、上野介となる。貿易、金融等の財政、経済面に尽力している。

慶應4年（1868）に幕府は大政奉還する。王制復古後も薩摩、長州等の倒幕派諸藩は旧幕府側を挑発し武力を用いて勢力壊滅を図った戊辰戦争（東北戦争）があこったとき主戦論を唱えたため敗れ隠退する。軍用金（埋蔵金）問題の一端ともなっている。

小栗忠順（上野介）は、宝永元年（1704）から旗本小栗家の知行地になっていた現群馬郡倉渕村の権田に土着する。

小栗忠順（上野介）の屋敷は、権田の輿音堂（山）の上の丘上に建設着手する。慶應4年（1868）4月28日に建前をする。しかし、閏4月（4月が曆の関係で2回ある）6日、烏川水沼河原で斬殺される。

閏4月17日に小栗家の家財、米穀、材木一切を取調べて高崎の商人に払下げ、村民にも払い下げている。

墓地、遺品は、権田の曹洞宗諦訪山東善寺にある。

この小栗忠順（上野介）の屋敷がどんな経過を経て前橋に移築されたか詳細は不明であるが都丸茂雄氏に移築される以前の持ち主であった故持木矣己氏の言い伝えによると、故持木矣己氏の知人であった現棟名町中塙田の「はる」さんが仲立ちをし権田から買入したとの言い伝えがある。

持木氏は、総社町で熊野屋という屋号で荒物屋を手広く商なっていた。

都丸茂雄氏の先祖が持木矣己二から600円で明治43年に買入し移築したものである。その際の「売



り渡し証文」が現存し、いい伝えも残されている。

建物は、農家の形式でなく武家屋敷の形式を持っている。式居（玄関）があり下段の間、中段の間（次の間）、上段の間を有し、書院形式をとるとともに簡素であるが床の間が付いている。式居上に垂木、柱の上に斗供が組まれている。

倉渕村教育委員会でもどういう経過を経て移ったかの古文書がないが、総社に売ったとのいい伝えが残されている倉渕村では、ほしい文化財であると注目をしている。

幕末に武家屋敷として権田に建てられ120年間に社会体制の変動の波をまともに受け、二転、三転をし総社町に安住地を与えられたものである。

建物は、一部の改造はあるものの創建当時の姿を残し、武士の夢を生活を偲ばせてくれる貴重な文化財であり、現在でも立派に役割をはたしている。

(5) その他の調査

上青梨子町で復活した盆おどりは、八木節以前の形を残しており注目される。また県の調査と共に、民謡及び小正月のツクリモノ調査を市内全域で実施した。いずれも報告書が刊行されている。

5. 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 本年度の発掘をふりかえって

昭和63年度は、18遺跡14現場の発掘調査、芳賀団地遺跡の報告書作成のための整理作業、各種開発事業に伴う年間52件に及ぶ確認調査（公共開発…表面調査7件・試掘調査3件 民間開発…表面調査23件・試掘調査19件）等の事業を実施しました。

調査地を地形区分から三つの地域に分類してみると、赤城火山斜面における調査16件、広瀬川低地帯における調査17件、前橋台地における調査34件となります。さらに利根川を境にして東部と西部とに分けてみると利根西での調査件数は21件と総数の30%強となり、高崎市に近接した地域の開発が益々増加の傾向にあることが分かります。

これらの開発により、先人の文化遺産である遺跡が失われてしまいましたが、開発に伴う発掘調査により、下記のとおり市の古代史を解明していく上の貴重な資料を得ることができました。



芳賀北曲輪遺跡 繩文時代敷石住居



(1/2)

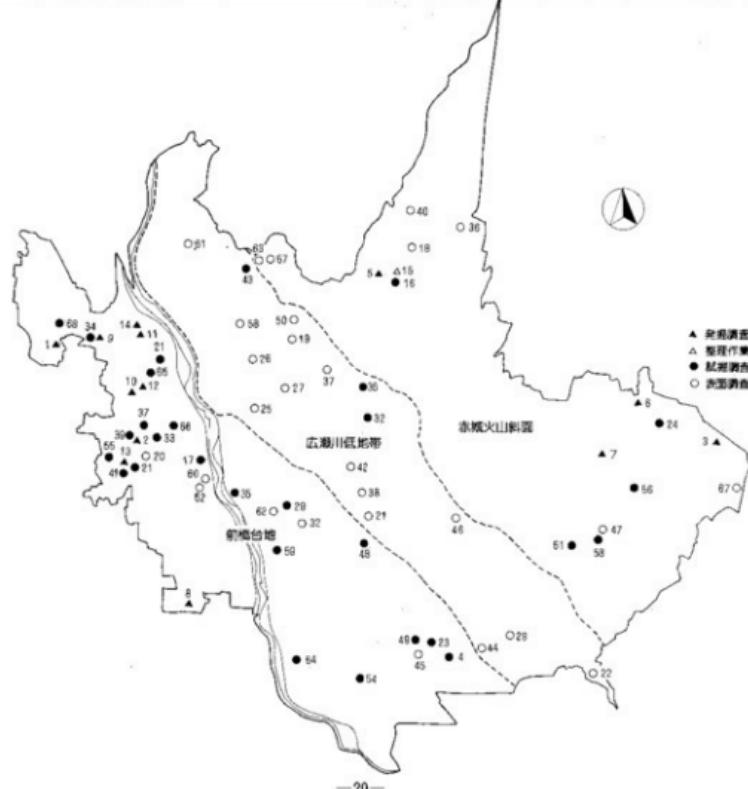


荒子小学校II遺跡出土銅印(現寸)

発掘・確認調査一覧

番号	遺跡名	第一時 地番	調査面積ha	調査原因	調査結果	監視権	本調査期間・備考
1	熊野谷遺跡	63A33 青梨子町1295 外	31.400	青梨子住宅団地造成	有 有	S63. 6. 1~63. 11. 15	
2	元総社明神遺跡	63A32 元総社町内	2.219	区画整理事業	有 有	S63. 5. 18~63. 10. 17	
3	河原町遺跡	63E11 西大室町 外	10,000	公團造成事業	有 有	S63. 5. 18~63. 10. 31	
4	西三並遺跡	63G15 中内町225 外	90,000 (1.370)	中内江団地造成	有 無	試掘調査	
5	芳賀北曲輪遺跡	63C7 勝沢町67 外	8,000 (5.100)	芳賀北部住宅団地造成	有 有	S63.12. 1~H1. 3. 25	
6	南浦遺跡	63E14 下大屋町1 外	110,000 (19,700)	荒原工業団地造成	有 有	S63.12.15~H1. 3. 31	
7	荒子小学校校庭遺跡	63E15 荒子町1251 外	2,148	荒子小学校校庭造成	有 有	H1. 1. 23~1. 3. 20	
8	地蔵前遺跡	63I46 川曲町486 外	5,976 (4,000)	川曲町住宅団地造成	有 有	S63. 6. 1~63. 7. 10	
9	柿木II遺跡	63A30 喜井町1-28-ア	1,200 (0.884)	倉庫建設	有 有	S63. 4. 19~63. 5. 9	
10	昌楽寺跡向遺跡	63A31 鶴町2882 10	1,164 (100)	マンション建設	有 有	S63. 6. 21~63. 6. 29	
11	相模山古墳	63A35 鶴町1746 外	450	宅 地 造 成	有 有	S63. 6. 29~63. 7. 20	
12	昌楽寺跡向II遺跡	63A36 鶴町2882-3 外	6,000	事務所建設	有 有	S63. 8. 17~63. 8. 29	
13	天神II遺跡	63A37 元総社町834-2 外	950	ガソリンスタンド建設	有 有	S63. 9. 8~63. 10. 7	
14	若宮遺跡	63A39 鶴町185 外	2,053 (1.363)	宅 地 造 成	有 有	H1. 2. 2~1. 3. 25	
15	芳賀国田遺跡	鷹巣町、小坂子町、五代町	327,800	芳賀北部住宅団地	有 有		
16	鳥取駅跡	鳥取駅817 外	5,820	芳賀丘民能建設	無	④S63. 6. 13~63. 6. 21	
17	石畠町2-11-3		1,722	石畠保育所改築	無	④S63. 8. 8	
18	小坂子町		100,000	土 地 改 良	有	④S63. 5. 9	
19	上郷井町		21,162	市民プール建設	無	④S63. 5. 19	
20	元総社町2406		1,320	元総社小学校プール改築	無	④S63. 5. 24	
21	天川大農町		区画整理	無	④S63. 10. 4		
22	下端田町		30,000	工業団地造成	無	④S63. 10. 19	
23	西瀬町898-2		4,963	上屋保育所改築	無	④S63. 10. 25	
24	西大空町		31,000	市 道 新 敷	無	暴走族がS63. 2月に試験	
25	住吉町1-14-2 外		1,465	住 宅 建 設	無	④S63. 11. 24	
26	下小出町1-28-13 外1筆		1,996	運輸会社営業所建築	無	④S63. 4. 18	
27	日吉町3-12(乙)53-1 外2筆		3,000	スーパー・マーケット建設	無	④S63. 4. 27	
28	鶴形町字一本松893-2		1,385	共同住宅建設	無	④S63. 5. 9	
29	天川原町東下4		1,922	共管住宅建設	無	④S63. 5. 24	
30	上家町1-外2筆		1,125	レス・トラン建設	無	④S61. 9. 17	
31	総社町字船人町屋敷120-12		387	共同住宅建設	無	④S63. 6. 6	
32	天川原町東下1-1 外1筆		1,584	宅 地 造 成	無	④S63. 6. 24	
33	元総社町2578-28		750	賃 住 宅 建 設	有	④S63. 7. 4	
34	高井町1-29-ア		1,646	倉 庫 建 設	無	④S63. 7. 11	
35	南町2-309-3 外3筆		1,405	共同住宅建設	無	④S63. 8. 12	
36	小坂子町字坂井230-2 外3筆		6,475	土 掘 取	無	④S63. 8. 18	
37	上津町674-1 外2筆		2,327	キノコ栽培施設建設	無	④S63. 8. 19	
38	天川大農町2-23-8		1,052	宅 地 分 購	無	④S63. 8. 26	
39	関東崎北遺跡	63A38 元総社町2-3-9 外3筆	2,579	共同住宅建設	有	辺境調査課の看板がついた	
40	猪町字十二原1525-1 外3筆		5,249	土 保 障	無	④S63. 9. 7	
41	元総社町字早道824-1		969	店 銀 建 設	無	④S63. 9. 14	
42	西片貝町4-17-15		1,036	共同住宅建設	無	④S63. 9. 22	
43	青柳町字青柳西708-6 外9筆		4,076	建 物 分 購	無	④S62. 12. 16	
44	鶴形町字上流261-1 外8筆		2,980	宅 地 分 購	無	④S63. 10. 5	
45	西善助町字坂下1500-外3筆		2,092	ガソリンスタンド建設	無	④S63. 10. 19	
46	上長瀬町12-1 外1筆		1,576	ガソリンスタンド建設	無	④S63. 10. 19	
47	二之宮町字坂下258		1,123	土 掘 取	無	④S63. 10. 24	
48	朝倉町4-1341-4		436	共同住宅建設	無	④S63. 10. 26	

49		西新町611-3 外3筆	1,218	農産物加工工場建設	無	◎S63. 11. 9
50		上郷町字治田2050-1 外18筆	31,448	ゴルフ練習場建設	無	◎S63. 11. 21
51	二宮谷地 蔦路	63E 16 二之宮町字谷地1371 外2筆	3,815	病 植 増 乗	有	試験調査地の確認がつかた
52		下石倉町1-20 外	1,471	事 務 所 建 設	無	◎S63.
53		二之宮町字下208-1 外1筆	2,488	ガソリンスタンド建設	無	◎S63. 12. 21
54		鶴光路町200-1 外5筆	2,841	事 務 所 建 設	無	◎H 1. 1. 30
55	赤羽 滝 路	63A 40 元郷社町字跡跡1237 外1筆	2,798	宅 地 分 廉	有	◎H 1. 1. 23
56		荒子町 滝台西282	500	土 地 改 良	無	◎H 1. 1. 17
57		青柳町山王982	1,619	施 設 建 設	有	◎H 1. 1. 19
58		北代町田西久保10 外3筆	2,537	宅 地 分 廉	無	◎H 1. 2. 3
59	東京 安寺 蔦路	63H 7 穴井町119-1 外5筆	2,442	共同住宅建設	有	有
60		下石倉町12-7 外	1,622	駿印 道場建設	無	◎H 1.
61		男根町字十二前366-4 外6筆	5,508	住宅展示場建設	無	◎H 1. 1. 30
62		穴井町字西天神404 外	2,740	マンション建設	無	◎H 1. 2. 6
63		青柳町大字引効窪889-2	2,760	分譲住宅建設	有	◎H 1. 2. 20
64		公田町165-5 外2筆	1,367	ガソリンスタンド敷地拡張	無	◎H 1. 3. 20
65	野馬家谷東 蔦路	63A 41 鶴社町字3-3-7 外1筆	1,877	共同住宅建設	有	試験調査地の確認がつかた
66		大友町2-27-1 外1筆	1,115	マンション建設	無	◎H 1. 2. 27
67		東大室町字上猿楽1346-1	4,317	取付道路新設	無	◎H 1. 3. 17
68		青梨子町503	2,533	特別攝護老人ホーム建設	無	◎H 1. 3. 29



前橋城車橋門関連石垣遺構 調査に至る経緯

- 昭和63年1月11日 日本経済新聞社前橋支局の社屋立て替え工事に先立ち芦田建設株式会社より、現地の埋蔵文化財の有無について問い合わせがある。
- 3月8日 現地でのボーリング調査の際大きな石に当る。
- 3月17日 戸田建設より立ち合い調査の依頼がある。
- 3月18日 立ち合い調査実施。石垣を確認する。日経支局と今後の取り扱いについて協議する。
- 3月19日 立ち合い調査を続けて実施。石垣の全貌がわかる。
- 3月22日 戸田建設へ調査の結果を説明する。
- 3月23日 文化財調査委員へ連絡する。
- 3月24日 教育長・管理部長・総務課長へ経過報告をする。
- 3月28日 文化財調査委員の方々の意見を聞く。
- 3月29日 文化財調査委員会議長の近藤義雄氏来室。
調査委員各々の意見を伝え今後の取り扱いについて協議する。
日経支局長に経過報告をする。
- 4月6日 文化財調査委員会議開催。現状保存し将来復元するよう答申する。
- 4月7日 支局長・戸田建設社員7名来室。前日の会議結果について説明し、今後の取り扱いについて協議する。
- 4月8日 教育長へ答申を提出する。企画調整課より資料提供の依頼がある。
- 4月11日 石垣の追調査を実施。
- 4月14日 教育委員会管理部長他が日経支局長へ状況説明をする。
- 5月16日 署保護課長へ経過説明をする。
- 5月17日 日経・戸田建設と協議。
- 5月20日 リ
- 6月3日 日経・戸田建設と協議。
現状保存が可能な設計ができるか否かの打診をする。
- 6月10日 遺構を痛めないような設計に加え、必要なときに現状が見られるような方法の要望を、文化財調査委員会議により決定する。
- 6月15日 日経支局長あてに、設計を一部修正した保存措置方法案(設計案)を送付する。
- 6月21日 建築指導課と取扱いについての打合せをする。
- 6月27日 教育長が日経本社へ、保存措置方法再案を持って陳情に行く。
- 6月28日 同再案に対して本社は基本的に同意する旨、日経支局長より回答がある。
- 6月30日 文化財保護室・教育委員会総務課に対し、日経より一部修正案が提示される。
市は、将来的取り出し工事への日経の協力を条件化してこれに応じ、最終合意が成立する。
- 7月6日 支局長へ保存措置にかかる確認書案を手渡す。
- 7月7日 日経支局長より、一部修正した確認書案が提出される。

7月8日 教育長が最終確認した確認書を日経支局長に手渡す。

調査経過

第1時調査 全員昭和63年4月12日～

4月13日

第2時調査 昭和63年9月19日～

9月22日

調査の結果

石垣は二段積みで、高さ1.8m、張り出し部分の高さ1.5m、幅8.5mで、確認された部分で全長約16mあり、現車橋門の石垣と平行している。

基礎はローム地山まで削り、一部分は粘土で地盤を作り、その上に丸太や手斧削りの四寸角の松材を組み、留め杭を打った筏工法を取っている。

石材は輝石安山岩を主として、五面を削った切り込みはぎの間地積であり、一石の平均は80×60

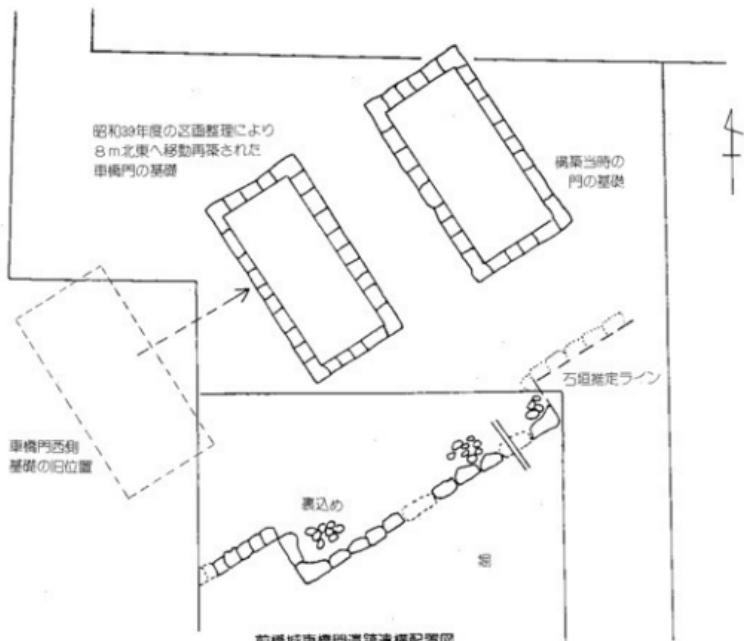
×70cmの大きさであつた。また石組の角に当たる部分は、圧力を分散するために算木積と呼ばれる工法を利用している。

石垣の背面は、割栗・砂利・砂でつき固められた堅牢な作りである。

前橋城絵図によると、この石垣の張り出し部分には、かなり巾の広い木橋が掛けられていたものと想像される。

前橋城は同絵図や現況地形から類推して、石垣を使用した部分は、大手門、本丸の一部と車橋門及びその周辺の一部分で、城の重要な部分のみに石垣を使用していたものと思われる。

前橋市史（2巻）に引用されている山本家文書によると車橋馬出の堀は、幅7間深さ2間と記されている。今回の調査では、基礎から石垣上面までの高さが1間であったが、山本家文書が正確であるとすれば、門外方向に傾斜を持つ築堀り構造であったと考えることができる。





熊野谷遺跡

遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 青梨子住宅団地造成工事（前橋工業団地造成組合）

所在地 前橋市青梨子町12番番地付近

調査期間 63年6月1日～63年11月15日

担当者 前原 豊・都所敬尚

調査面積 13,600m²

調査の経緯 62年11月19日付けで前橋工業団地造成組合より上記事業に伴う調査依頼が提出された。委託調査を経て、用地買収契約が締結される63年度当初より、試掘調査と発掘調査を並行して実施した。

立地 熊野谷遺跡は、前橋市街地の北西約6kmに位置する。地形的には、榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原原状地の間にあたり、八幡川と牛堀川にはさまれた台地の緩やかな斜面上に立地している。周辺には、總社古墳群をはじめ、上野国府や上野郡分2寺等の中央施設がみられる。また、近年開通の建設に伴う発掘調査で、多くの遺跡も発見されている。

旧石器時代 なし。

縄文時代 住居は4軒、竪穴状遺構1基、土坑9基、落ち込み1ヶ所が検出された。最古の遺物は約8,500年前とされる早削押摩土器であつたが、主体となるものは約3,500年前の中晩終末から後期初頭の加曾利E4式土器と称名寺1式土器である。遺構の中で、J-1号住居址は2回にわたって使用されたもので、下

面から「納鏡形住居址」が検出され、上面から敷石住居址に類似した配石遺構が検出された。こういった例は県内をはじめとして全国的にもなく、今後縄文時代の文化を考えるうえで貴重な事例となつた。また、J-D-6号土坑からは炭化したトチの実が検出された。貯蔵に供したものと考えられ、土坑の用途を解明する上で興味深い事実を提供した。

弥生時代～奈良時代 なし。

平安時代 住居址25軒、掘立柱建物址1棟、溝16条、竪穴状遺構1基、土坑44基、落ち込み3ヶ所が検出された。H-5号住居址は窓の両側に櫛を持つ住居址である。本時期の住居構造と著しく異なるもので貴重な発見となつた。D-8号土坑は土床整であり、中から鉄釘や供献土器が出土し、土葬伸葬舞であることが判明した。遺物については土器類、須恵器の他に、灰釉陶器、綠釉陶器、鉄釘、鉄鎌、土器、炭化穀類も検出された。これらの遺物の年代は9世紀後半から10世紀前半にかけてのものである。



元總社明神遺跡

遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 前橋都市計画事業元総社（西畠第三街樹）地区土地区画整理事業（区画整理第一課）

所在地 前橋市元総社町内（通水路部分）

調査期間 63年5月18日～63年10月17日

担当者 菊谷秀一・鈴木雅志

調査面積 2,219m²

調査の経緯 区画整理第一課より、上記事業に伴う調査依頼があり、昭和57年以来発掘調査が行われてきている。

立地 榛名山以西方面が前橋台地へと移行する牛堀川河岸に広がる台地上に日本のトレンチ調査を実施。本年度は牛堀川河岸改修に伴う箇所を中心であった。

遺構・遺物

古墳時代 吟楽寺北周辺で住居址10軒を検出された。殆んどがこの時代の後期にあたる鬼長滑のもので、大きい住居址は

一边7m以上を測る。

奈良・平安時代 総数20軒の住居址が重複して検出された。いずれも小規模でその方向等の規格性は認められなかつた。また59・60年度に検出され、国府の東限を示すとも考えられている大溝の北ではその続きと見られる溝を検出している。更にその付近の調査区では、浅間山日経石下の耕作状ともみられる遺構を検出。

中近世 牛堀川河岸で戸戸3基を検出。その中からは石塔頭が出土している。古地図等に照らし合わせて、蓋田城関係の遺構とも見られる。その他、遺物としては江戸～明治時代の陶磁器類が数点出土している。

内堀遺跡群(上繩引遺跡)



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 大室公園整備事業(公園緑地課)

所在地 前橋市西大室町

調査期間 63年5月30日～63年10月31日

担当者 藤部守安・加部二生

調査面積 10,000m²

調査の経緯 公園緑地課より上記事業に伴う調査依頼があり、昭和62年度の公園用地全般の確認調査を経て、今年度の駐車場用地の発掘調査となつた。

立地 赤城山南麓の標高130～135mの丘陵地に位置し、北西に上繩引遺跡(周溝墓等)、南には前・中・後二子古墳、桂川をはさんで東には赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代 なし。

縄文時代 堀之内式土器の埋蔵1基。遺物は草創期の有舌尖頭甕、早期末の余痕文式土器、中期加曾利E式土器、後期称名寺式、堀之内式土器等が出土。

弥生時代 東北地方南部の土器である天王山式土器が1点出土しているが、古墳時代の土器を共存してあり時代の特定

は難しい。

古墳時代 前期の住居址1軒、中期の住居址1軒を検出。正方形に近いものが多く、床面積は8～26m²であった。これらのうち、凌閣の鞋石の純粋が認められたものはら軒であった。遺物は櫛引き文系土器(樽系)や龜文系土器(赤井戸系)を中心とする多量出土。上繩引遺跡の周溝墓群に対応する集落と考えられる。

また、古墳が1基検出されたが、これは「上毛古墳群」に荒筋村57号墳と記されているもので、主軸長約35mの帆立貝式古墳である。主体部は底に盗掘によつて破壊されていたが鉄矛等が出土。埴輪は円筒をはじめ大刀、盾、鏡(ゆき)、箭(とも)、轡子、矛(ほこ)、盾持ち人、鷹(さしば)、馬、冠帽をかぶつた男子像など、多種類出土した。なお石室入り口付近からは墓前祭りで供献されたと思われる土師器のほか個体原位置で出土。

奈良・平安時代 地震による地割れ跡1条と溝1条検出。

中・近世以降 溝、土坑等検出。

西三並遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 中内工業団地造成工事(前橋工業団地造成組合)

所在地 前橋市中内町字西三並地内

調査期間 63年5月25日～63年6月29日

担当者 速藤和夫・新保一美(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)

金子正人・白石光男・長島郁子(スナガ環境測定株式会社)

調査面積 30,500m²

調査の経緯 西三並遺跡は、前橋工業団地造成組合による工業団地造成工事に先がけて、埋蔵文化財の有無の確認調査を実施する事となつた。

立地 前橋市の南部、前橋台地と広瀬川低地の渓谷付近に位置し付近に堀川、藤川が流れており、北には主要地方道高崎・駒形線が走行する。標高は78m前後で北から南へ僅か傾斜する水田地帯である。

先土器時代 なし。

縄文時代 なし。

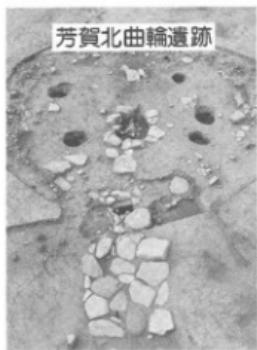
弥生時代 なし。

古墳時代 なし。

奈良・平安時代 西区調査より壯年状の高まりがB絆石墓蓋下に確認できた。途中途切れているが、本來は一条のものであったと思われる。方向は南北方向に伸び、直交して東西方向にも伸びている。また、東約10m付近にも同様の高まりが確認出来た。

これらの高まりは自然消滅してあり水田地に伴う畦跡と確認するまでには至らなかつた。中央区及び東側調査区では、焼土が5ヶ所で確認され、内2ヶ所では袖石力支脚石と思われる石を検出した。

他の3ヶ所については生活跡を伺わせる遺物は見られない。遺物は、西・中央・東各調査区から出土している。土器器、須恵器片(环甕、高杯)等が検出された。また、中央区9トレンチ内からは埋め込みによる土師器片、須恵器片が多数出土した。



芳賀北曲輪遺跡

事業名 芳賀北住宅団地勝沢町拡張工事(前橋工業団地造成組合)

所在地 前橋市勝沢町47、49、50、51、57、58番地

調査期間 昭和63年12月1日～平成元年3月25日

担当者 遠藤和夫・新保一美(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)

金子正人・長島部子(スナガ環境測設株式会社)

調査面積 8,500m²

調査の経緯 前橋工業団地造成組合より芳賀北住宅団地勝沢町拡張計画に伴う埋蔵文化財調査依頼を受け、昭和63年12月1日から平成元年1月9日まで試掘調査が実行された。その結果、鐵文時代住居跡、古墳の石室及び陪塚が確認され、1月17日より本調査を開始した。

立地 本遺跡は赤城火山系の芳賀地区内に位置している。古墳の多い所であり、当調査地も「群馬県遺跡台帳」の「北曲輪古墳群」の場所に当たっている。周辺にもオブノ古墳、東公田古墳等がある。

他に芳賀北部面地遺跡が隣接しており、東部工業団地遺跡、西部工業団地遺跡、松ヶ谷遺跡、善勝寺、勝沢城、康徳の遺構等が周囲を取り巻いている。

遺構・遺物

鐵文時代 穹穴式住居跡19軒、柄鏡型敷石住居跡4軒(柄の部分敷石、小腰ガ円型状に住居を形成する)配石遺構1軒(周囲を石で囲む、中央部に炉あり)が検出された。

遺物 は、遺跡全体から土器の破片収納箱約50箱(前期彌滿式、中期撫板、加曾利、後期称名寺、堀之内)が検出され、分鏡型石斧石頭なども出土した。

住居跡からは一部完形品がら、6点、石皿、摩石、磨製石、住居跡近くから石棒、扶状耳鉢、土偶等が検出された。

古墳時代 古墳が6基確認され、4基から石室が検出された。周溝は途切れだ円型状で2基は調査区外にかかっていた。

遺物 は、胴垂地中央部の1基の周溝から須恵器の破片数点、石室から、太刀、刀子、鐵鏃、人骨などが検出された。

他に井戸1基、土塙12基、溝2条が検出された。

事業名 荒砥工業団地造成

所在地 前橋市下大屋町811番地、他

調査期間 確認調査、昭和63年12月21日～1月31日。追加北地区、平成元年2月17日～3月8日。

本調査、平成元年2月7日～3月27日。

担当者 福田紀雄・浜田博一(市調査団)、近江屋景造(山武考古学研究所)

調査面積 本調査部分、4,141m²

調査の経緯 荒砥工業団地造成に伴う開発行為に先立ち、前橋工業団地造成組合より調査依頼を受ける。調査主体に前橋市埋蔵文化財発掘調査団があり、調査実務を山武考古学研究所が昭和63年12月21日より実施した。

立地 本遺跡は上毛電鉄大胡駅の南東約3kmの地点、荒砥川と神沢川に挟まれた赤城山麓の台地上に位置する。本遺

跡の南、大正用水の対岸では県教育委員会が八光遺跡として鐵文時代・古墳時代の集落址が近年調査されている。

先土器時代 なし。

鐵文時代 本調査区より土塙3基、トレンチ内より、住居跡3軒、土塙6基確認されている。遺構は、南西側に集中している傾向を示している。遺物は鐵文後期土器片が多く出土している。

弥生時代 なし。

古墳時代 石田川期の土器を伴うものと鬼島期の住居跡を本調査区より検出。集落はトレンチ調査の結果南へ点にして検出される傾向を示している。

また、鬼島期の土器器身の破片を伴う直径3m～4mの土塙が西寄りに集中して本調査区より検出されている。

奈良・平安時代 本調査区内より一軒検出。南西カマドである。遺物は土器器身、甕である。

中・近・遺構・遺物なし。



横俵遺跡群(上八光遺跡)



荒子小学校校庭II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 荒子小学校 校舎増築
所在地 前橋市荒子町山麓戸
字久保地内
調査期間 平成元年2月20~3月27日
調査面積 2,148m²
調査担当 井野誠一(市・調査役)、伊庭
彰一、瀬原勝美(山武考古学研
究所)

事業種別 小学校校庭改修工事

遺跡の立地 本遺跡は前橋市の東部に
ある荒子町に所在し、西方の市街地には
約8km、北方の勢多郡大胡町には約2.5
km、東方の佐波郡赤堀町には約4kmの距
離にある。

本遺跡の立地する赤堀山南麓は緩やかで、
広大な被野地形となり、赤堀・桜名・
浅間山等の火山灰が風化したローム層に
よって厚く覆われている。この斜面を荒
駄川・神沢川などの多くの中小河川や窪
池、沼を水源とした河川が南下して、舌
状台地・沖積地・裾野巣状地帯を形成して
いる。

本遺跡は大胡町の千賀沼を水源とする
宮川の開削谷の舌状台地上に所在する。
標高は台地北東部が115mで、北から南に
緩やかに傾斜するが、台地先端部はやや
傾斜を強める。台地、沖積地とも近年ま
で桑畠となっていた。

住居跡は4m四方の小さいものばかり
である。また、カマドは東壁の中央や南
寄りに付設されているものが多く、焼道
は屋外へ長く突出している。

3号住居北の床面上から鏡印が出土
した。二松学舎大学講師の木内文男先生
に鑑定いただき結果、鑑型の印面に直
接浮き字に彫った鏡型铸造による古鏡印の一
例ということである。また、印文は草体の「葉」
で、印面の方3cmは当時の一寸に相当し直規格の「私印一寸五分を限
りとなす」の体文より私印と認められ、
姓のいづれか一子を意味しているもの
と考えられる。

地蔵前遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 前橋市川曲町住宅団地造成工事
業(群馬県住宅供給公社)

所在地 前橋市川曲町地蔵前486番
地、他9筆
調査期間 63年5月21日~63年7月12日
担当者 浜田博一、遠藤和夫、新保一
美(前橋市埋蔵文化財発掘調
査団)、金子正人、荻野博巳(ス
ナガ環境測定株式会社)

調査面積 4,000m²

調査の経緯 一级河川渋川の改修工事
に伴う家屋移転地造成工事の実施に先が
け、群馬県教育委員会の試掘調査で「平
安時代の所産と推定される水田跡」と確
認され、県教委からの要請を受け、前橋
市埋蔵文化財発掘調査団が調査主体とな
り発掘調査を実施した。

立地 当遺跡は、前橋市南西部の前機
台地上にあり、利根川左岸1,000mに渋川
が南下し高崎市と境を接する位置で標高
93mにある。周囲は水田地帯でありまだ
近隣に条理制水田の日高溝跡や、北方1.5
kmに村前遺跡など多くの遺跡が報告され

ている。

先土器時代 なし。

縄文時代 なし。

弥生時代 宋銅トレンチ内より浅間C
鉛石下の溝の一部を確認した。溝は、南
北方向に継ぐ可能性があると思われるが、
調査区外に継ぐため、今後の調査有待
ことにしたい。

古墳時代 なし。

奈良・平安時代 浅間山の噴火(1108
年)により陥下した浅間日乾石層下より
水田址が確認された。水田は、耕作の遺
存状況がよく、18面の水田址が確認され、
その中には、幅約18m横25mの東西の長
方形をなす水田址が検出され、耕作の東西
に水口4カ所と溝2条を確認した。

他に水田面に、人と家畜と思われる足
跡が、多数検出された。遺物は、土器器
の片手と須恵器の底部。他に細かい破
片数十点が出土している。又水田面数カ
所から土のサンプルによる、プランクト
ノール分析を行った結果、福の花粉が高
い数値で検出されている。

稻荷山古墳



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



昌楽寺廻向II遺跡



遺跡位置図(国土地理院5万分の1 前橋)



事業名 民間開発(宅地造成)

所在地 前橋市総社町1746-1、他2筆

調査期間 63年6月20日～63年7月20日

担当者 浜田博一・遠藤和夫・新保一美(市・調査団)、金子正一(スナガ環境測定株式会社)

調査面積 550m²

調査の経緯 開発事業者より稻荷山古墳(事業者所有)の宅地開発事業計画の事前協議を受け、市教育委員会で事業者と協議したが記録保存のため6月20日より発掘調査を前橋市埋蔵文化財発掘調査団のもとで実施した。

立地 本遺跡は、榛名山東南麓斜面の末端に、榛名山尾流に標高130mの前橋台地を南下する荒川(天狗岩用水)の左岸100m在り、東500mには元景寺を経て利根川がある。西辺には、鶴社二子山・蛇穴山・遠見山などの古墳群の他山王庵寺石製塗尾・恵心堂・根巣石も近在し、町並みは江戸初期の城下町・信濃町の名残りのある地盤である。

遺構 墓丘の残存全長は南北方向33m東西方向21.4m石室全長7.4m玄室長4.4

m幅2.23m奥壁高1.60m養造長3.15m幅95cm裏込め外周プランは長方形を呈する。封土は石室の北側に残っていたガ石室の上面は破壊が激しく封土は見られなかった。石室の北東部と南東部に崩壊を免れた魯石が2ヶ所確認された。

石室は養造部を南北に向け主軸をN-E-W-Eに沿う両袖型横穴式石室である。

裏込めに榛名山二ツ岳形成時に生じた角閃石安山岩を所々に使用している。

遺物 陪葬の破片は前橋市石碑と奥壁の裏側の貢石の外に集中している事から輪輪を伴なう古墳の終末期と考えられる。内筒道鏡の破片405点と須恵器・土師器片・石室内から幣金具・銭鎌表道部からは馬具と金銅製金具が検出された。この金銅製金具には打ち出しが見られ内面には2種類の纖維が貼り付けられた状態で検出された。封土として盛り上げたソフトローム層に縄文時代前期の土器片が検出されている。

その他に近世の庚申塔66基と墓塚より出土した皿4枚と寛家通宝等の銭鎌2枚、和鏡、低石、石斧、石臼等の出土遺物が見られた。

事業名 生活協同組合群馬県勤労者住宅協会事務所建設事業

所在地 前橋市総社町総社字昌楽寺廻向村庚2882番地3

調査期間 63年8月8日～63年8月29日

担当者 浜田博一・遠藤和夫・新保一美(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)、金子正人・白石光男(スナガ環境測定株式会社)

調査面積 約280m²

調査の経緯 開発事業者(生活協同組合群馬県勤労者住宅協会)事務所建設に係わる宅地開発事業計画事前協議書の提出に伴い埋蔵文化財調査の依頼を受け、市教育委員会での実地調査で遺構が確認され、発掘調査を市埋蔵文化財発掘調査団のもとでスナガ環境測定㈱で調査業務を実施した。

立地 当遺跡は前橋市北西部、利根川右岸前橋台地上に位置し榛名山東南麓に形成された相馬が原廢帝の東陵部に位置し、北東150m附近で八幡川と天狗岩用水が合流して荒川となり南流している。

地形は緩やかな傾斜地形で鏡高地を形成し、標高約123mである。周辺には、宝塔山古墳を始め山王庵寺など多くの遺跡が集中する地盤の中にある。

先土器時代 なし。

縄文時代 土竈4基が検出できた。形状は3基が円形をしており1基は正橢円形である。規模は3基とも直径約1m前後で深さは約30～50cmを計る。遺物は土器片6点と石器4点が検出された。その他の包帯層中に石器を数点確認した。

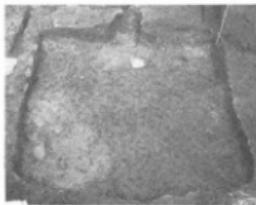
弥生時代 なし。

古墳時代 なし。

奈良・平安時代 穹穴住居跡4軒が確認できた。1号・2号住居には貼床が認められ、2号住居では一部窓溝も確認できた。カマドは4軒とも東壁に付設され、4号住居の櫻道は長く伸びる。遺物は、土師器、須恵器の杯、甕、壺、甕、羽蓋片、皿等が検出でき、特殊なものとして、土器の底部に穴をあけた初鋤車が出土した。

時期不明 井戸跡1基、土塁1基、ピット4ヶ所と人骨が検出された。

天神II遺跡



事業名 民間開発（店舗建設）
所在地 前橋市元紳社町834番地、他
調査期間 63年9月8日～63年10月7日
担当者 遠藤和夫・新保一美（市・須
賀團）、金子正人（スナガ環境
建設株式会社）
調査面積 950m²

調査の経緯 開発事業者より宅地開発事業計画事前協議（店舗建設）を受け協議調整し、西辺地の発掘調査の状況等を審査し、隣接地の天神遺跡と連なって奈良・平安時代の遺構などが考えられ、発掘調査を実施することになった。

立地 天神II遺跡は利根川右岸に広がる前橋台地の西側に位置し東山道の難定地に近く国府或内と考えられる。現地表は標高114.5mの平坦な地形を呈しているが、本調査により平安時代以前は東側に急傾斜している事が確認された。

遺構 奈良・平安時代の壁穴住居址10軒が確認された。プランは隅丸長方形を呈するものと思われる。柱穴及び縁周溝は確認されなかつた。カマドは東壁中央部やや南寄に設置されている。

1号住居址カマド・南側と本調査中央部

から井戸跡が確認された。前者は円筒状、後者はロート状の形態であった。

土壇は2基確認されほぼ円形を呈すが遺物は少くなく少破片であり時期を決定するには至らなかつた。

溝状遺構 東側の急傾斜する南側に南北に走る溝が確認された。溝の西側は小間割を想定させる尾根状の高まりが見られた。E-1、E-2ブリットからは多量の土器片と炭化物が検出されたが遺構として確認するには至らなかつた。

遺物

先土器時代 確認されなかつた。

縄文時代 中期の土器片が束縛の小間割状遺構から数点、表衆で短冊型石斧1点その他の凹石1点灰石2点が検出された。

弥生時代 確認されなかつた。

古墳時代 墓輪片と馬蹄の接合部が検出された。

奈良・平安時代 本調査で確認された10軒の住居址はこの時期に該当し出土遺物は土師器（杯、櫛）須恵器（坏、境、壺）灰施青磁295点、綠釉陶器57点瓦66点土錐1点鐵鋸41点羽口片5点鉄製品12点砂質凝灰岩の切石等が出土している。

若宮遺跡



事業名 民間開発（宅地造成事業）
所在地 前橋市紳社町駒場191番地、他
調査期間 平成元年2月2日～3月20日
担当者 遠藤和夫・新保一美（前橋市
埋蔵文化財発掘調査団）、金子
正人・駿野博巳（スナガ環境
建設株式会社）
調査面積 1,535m²

調査の経緯 開発事業者から宅地開発事業計画事前協議書の提出に伴い埋蔵文化財調査の依頼を受け市教育委員会で試掘調査の結果、奈良・平安時代の集落跡及び海の一部を検出し遺跡地と判断した。このことから開発事業者と協議調整し発掘調査を実施することとなつた。

立地 若宮遺跡は、JR上越線群馬総社駅より東方向約400mの地点で、利根川の右岸標高山南麓に広がる扇状地の末尾にあたり、近くを天狗川用水が流れ、緩い傾斜を示す前橋台地上の標高130mにある。周辺には、総社二子山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳、西側には、山王庵

寺・上野塙分寺・国分尼寺跡があり、遺跡の包囲地である。

先土器時代 なし。

縄文時代 石斧、土器片数点。

弥生時代 なし。

古墳時代 墓輪片数点。

奈良・平安時代 住居址13軒、カマド跡1ヶ所、貯蔵穴2ヶ所を検出した。住居址は、調査区域全体から見て、北側寄りに集中している。全体に擾乱されていてプランの残りが良くなかつた。出土遺物は、土師器の坏・境・壺・羽釜・須恵器の壺片など、他に鐵錐が出土した。

まだ平安時代住居下より大小の溝が確認された。溝は、西側大溝と櫻樹トレンチで確認した大溝とを、ゆるやかに蛇行した小溝が結ぶ形でつながって確認された。

中・近世 南壁に一部かかつた所より集石が出土した。川原石と見られるが、使用痕など見当らず、近世の集石と思われる。

芳賀団地遺跡調査

芳賀団地遺跡発掘調査整理事業は、昭和56年度から整理事業を開始し、昭和58年度に作成委員会を発足させ事業を行なってきた。

昭和58年度に第1巻（芳賀東部団地・谷東）を刊行し、昭和62年度に第2巻（芳賀東部団地・谷西）を刊行した。昭和63年度には、第3巻（芳賀東部団地・縄文・中近世）の遺構・遺物整理と原稿執筆を行なった。3巻刊行に伴う作業は一部昭和62年度より開始した。

遺構については、住居跡について事務局で整理作成を行なった平面図・データ表等の資料にもとづいて、各担当者が執筆を行なつた。

住居跡以外の遺構と遺構一覧表の執筆については事務局で行なつた。

遺物については、事務局で接合・復元・実測・トレース・拓本を行ない、さらに遺物鑑定を実施した。

遺物と遺構の考察については、各担当者に執筆を依頼した。

第3巻に収録予定の遺構は、縄文時代の堅穴住居跡60と土坑140、配石遺構など12、中近世の遺構では、溝23、井戸22、土坑290、地下式土坑4である。

住居跡は前期のものが大部分で、中期末～後期前半の土器を伴う敷石住居跡6軒を含んでいる。

住居跡・土坑とも台地内の占地位置と、形状等には時期ごとに特長がみられる。

中近世の遺構では、中央台地上の区画を意図したとみられる溝は居館址とも見られる。その後作られた多数の土坑も含め、遺物の面でも他とは異なる様相が見られる。ここには台地西側に、南北に並んで地下式土坑が位置している。

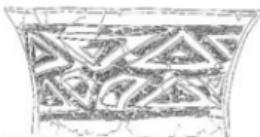
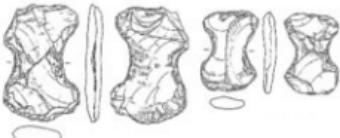
来年度は、第3巻の刊行作業と、第4巻（芳賀西部団地）・第5巻（芳賀北部団地）の整理作業に対応するため、作成委員会の改組、発足を進める予定である。



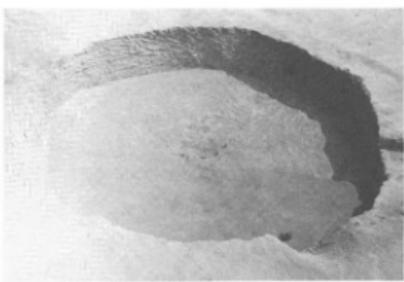
J-6号（中期末葉）敷石住居跡



J-14号（前期前半）



芳賀東部団地遺跡出土遺物



J-92

臨江閣本館および茶室の 保存修復工事について

1. 説明

臨江閣は前橋市街西寄りを流れる利根川の段丘上にある。東西方向を長辺とする三角形状の敷地の西隅に茶室、ほぼ中央に本館、そしてその東南に別館が建つ。この地は特に西方への眺望に優れ、利根の流れを眼下に妙義、浅間の山なみを遠望する好地である。

本館は明治十七年に県令横取素彦の勧めにより、下村善太郎をはじめとする地元有志らの醵金で建てられた木造二階建ての和風建築である。

本館と茶室は昭和六十一年に群馬県の重要文化財に指定された。今回の部分修理に伴う調査によつて、以上のように建築当初の姿とその後の変遷が概ね明らかになったので、これを機に本館は明治四十三年、茶室は当初の形に復旧整備する。なお本館の復原年代を当初としなかつた理由は、明治四十三年に別館が建設された時点においてようやく臨江閣の姿が整つたとの解釈からである。

2. 要旨

本館

1. 留守居室棟を次のように復旧整備する。

(イ) 茶の間玄関庇と北側一間通りを撤去して側柱一本を復し、連続する腕木庇を整備する。また茶の間合の間の間仕切りおよび置を撤去し、一連の板の間に復する。

(ロ) 縁北側二間半を撤去し、半間西に柱三本を立て「浴室」を整備する。

(ハ) 「台所」床を畳敷きに復する。

2. 便所・湯殿棟を次のように復旧整備する。

(イ) 「便所」東側一間通りと床を撤去して東面、北面柱を旧位置に復し、各柱間装置および内部を整備する。

(ロ) 「物置」北面窓敷居を約40センチメートル

上げ旧規に復するとともに床板を撤去して旧床をあらわし、大便所、小便所を整える。

(ハ) 「物置」西側の張り出しを撤去し、格子付出入窓と掃出口を復する。

(二) 「脱衣所」床を畳敷きに改め「湯殿」西面の窓と出入口を旧規に復する。

3. 二階「次の間」東面北間の柱間装置を撤去し、この部分に踏込床を整備する。

4. 一、二階の南面庇銅板葺をこけら葺に改める。

茶室

1. 「玄関」と「板間」北側の半間通りを撤去して側柱筋を半間南に復し、玄関および腕木庇を復旧整備する。

2. 「茶室」床の間北面外部の半柱、巾木と板の間西面外部の巾木を撤去し、土台と下見板を復する。

3. 「茶室」、「書院」の南面庇鉄板葺を銅板葺に改め、軒下を三和土叩きに整備する。



臨江閣入り口額（県令 横取素彦）

あとがき

文化財保護の事業ほど、その継続性が要求されるものはないように思います。対象とするものが数千年から時には数万年もの時代の産物であり、放っておけばやがてなくなってしまうものだからともいえます。

日常の業務の忙しさに埋没しそうになりながらも、自分たちがやらなければ、永久になくなってしまうと、調査に従事した結果が、この報告書に生きているはずです。

民俗調査で土地の方から貴重な話をいくつもききました。できるだけ報告書にのせようと努力しましたが、まだまだ力不足で期待にこたえきれない面があるかもしれません。しかし、一步ずつの前進の努力を続けていくつもりです。

ご指導、ご協力をよろしくお願ひします。

昭和63年度

前橋市教育委員会管理部

文化財保護室 室長 福田 紀雄

文化財保護係 係長 福田 紀雄

主任 高橋 賢靖

主任 高橋 正男

主任 井野 修二

主事 関根 吉晴

埋蔵文化財係 係長 浜田 博一

主任 遠藤 和夫

主任 駒倉 秀一

主任 園部 守央

主任 井野 純一

主任 前原 豊

主事 鈴木 雅浩

主事 郡所 敬尚

嘱託 新保 一美

嘱託 加部 二生

前橋市文化財調査委員

議長 近藤 義雄

中沢 右吾

丸山 知良

松島 栄治

梅沢 重昭

昭和63年度 文化財調査報告書 第19集

平成元年8月31日印刷

平成元年9月1日発行

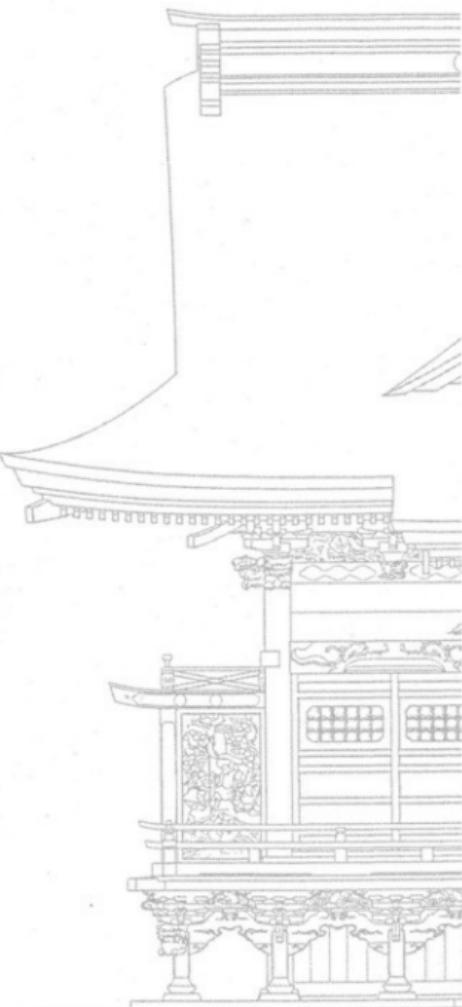
発行 前橋市上泉町664-4

前橋市教育委員会文化財保護課

印刷 上田印刷工業株式会社

(文化財保護室は平成元年4月1日付で

文化財保護課になりました。)



(上野總社神社 拝殿)